

2007年6月1日

2007年度 大学英語教育学会（JACET）関西支部 第1回講演会開催のお知らせ

関西支部支部長 木村博是
大学英語教育学会関西支部事務局
〒522-8533 彦根市八坂町 2500
滋賀県立大学 小栗裕子研究室
E-mail: yoguri@ice.usp.ac.jp

初夏の候、会員の皆様にはますますご健勝のことと拝察いたします。

さて、今年度の第1回講演会を下記の要領で開催したく存じます。奮ってご参加いただきますようご案内いたします。

記

日時： 2007年7月29日（日曜日） 15時30分-17時00分（受付は15時00分から）

場所： 高槻市生涯学習センター3階第2会議室

（阪急高槻市駅から西に500m 徒歩約5分 JR高槻駅から南に500m 徒歩約5分）

高槻市桃園町2-1 TEL:072-674-7700（地図は裏面参照）

講師： 加賀田 哲也氏（大阪商業大学）

演題： 「小・中連携を視座に入れた英語教育への取り組みー寝屋川市の事例をもとに」

概要と講師プロフィール： 裏面参照

講師紹介・司会： 木村 博是氏（近畿大学）

資料代： 会員 無料、非会員 500円

※事前申込不要。直接会場にお越しください。

※お車でのご来場は、ご遠慮ください。

※講演会終了後、懇親会を予定しております。

場所： レストラン 樗（KEYAKI）高槻市生涯学習センター15F（講演会と同じ建物です）

TEL：072-674-7790

会費： 5000円

申し込み：7月20日（金）までに、担当幹事の 小栗裕子(yoguri@ice.usp.ac.jp)までご連絡ください。

なお、会費は当日徴収いたします。

要旨

文部科学省の2006年度実態調査によると、全国の95.8%の公立小学校で英語活動が実施されている。ただし、指導内容、授業時間数などは多様化しており、依然として学校間格差は大きいと言える。そこで「教育の機会均等の確保」や「グローバル化の進展への対応」などといった状況を鑑みると、新学習指導要領では、5・6年生を対象に「領域」もしくは「総合的な学習の時間」のなかで、週1回程度導入されるという感が強い。そうなる、後に続く中学校、高等学校での英語教育の在り方も、当然、これまでのものとは異なってくるであろう。旧態依然とした指導方法や校種間連携が欠如した英語教育の現状を、それぞれが連携した「一貫性」という視点から整備し直す必要がある。即ち、新たに小学校英語教育を位置づけながら、これまでの英語教育を大きな1本の柱として見直し、小・中・高が果たす役割を明確化する必要がでてくるであろう。

本講演では、発表者がアドバイザーとして兼任している寝屋川市（平成15年度から17年度までは「研究開発学校」、現在は「構造改革特別区域」として指定）での事例をもとに、小学校英語教育の取り組みや小学校での英語教育を踏まえた中学校での授業改善の視点について報告したい。

プロフィール

福岡県大牟田市生まれ。シアトルにある州立ワシントン大学（University of Washington）言語学部を卒業後、同大学大学院教育学研究科を修了（教育学修士）。現在、大阪商業大学総合経営学部教授。英語授業研究学会理事、日本児童英語教育学会理事。また、平成15年度より寝屋川市において「小・中連携の英語教育」を研究テーマとする研究開発学校運営指導委員、平成17年度からは教育特区アドバイザーを兼務。日本英語検定協会1級面接委員。主な著書：『児童が生き生き動く英語活動の進め方』（共著、教育出版）、『これからの小学校英語教育 理論と実践』（共著、研究社出版）、『TOEIC テスト速解ナビゲータシリーズ・文法編』（単著、三修社）、など。

付近地図

